

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

非核石川の会・井上英夫代表

中能登町長・杉本栄蔵さんと懇談

非核石川の会・井上英夫代表は一〇月三十一日、中能登町庁舎に杉本栄蔵町長を訪ね、非核平和について懇談しました。尾西洋子常任世話人、神田順一事務局長、川本浩平事務局次長が同行しました。



被爆70年の来年度に「非核平和宣言の町」標柱の建立を約束いただいた杉本栄蔵町長（右）と懇談する井上英夫代表世話人

杉本栄蔵町長と堀内浩一総務課長は満面の笑みで私たちを迎えて下さいました。

おにぎりの里・中能登町

中能登町は二〇〇五年四月、旧鳥屋町、鹿島町、鹿西町の三町が合併し誕生しました。

西に眉丈山、東に石動山に挟まれた邑知地溝帯と呼ばれるこの地は、渡来人によって早くから稲作が始まったところであり、遺跡から炭化したおにぎりが出土したのも頷けます。

平和首長会議・県内九番目に加盟

広島市長が呼びかける「平和首長会議」に昨年六月に加盟されました。

「いきさつは？」の問いに、「断る理由が無かつた。良いことは広まったら良い。それだけです」ときっぱりと加盟の動機を話されました。

しかし町民には十分知られていないと苦笑い。井上代表より「核兵器廃絶などの平和運動をしていますが、自治体などの草の根の運動が重要と思う。平和運動に込める町長さんの想い、根本にあるものを」「平和首長会議に加盟された町長さんの平和への理念や平和施策」などを尋ねました。

杉本町長は「原爆の悲惨なことは他人ごとではない。核兵器廃絶は当然のことです」と語り、毎年実

非核5項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。



一月八日に、原発ゼロを求める県民集会が開催された。三月と十一月のこの集会が恒例となり、毎週金曜の行動も全国で継続されている▼だがこれは、原発ゼロへの転換が実現していないからでもある。世の中は、なかなか変わらない。倦まずたゆまず運動していくことが必要だ▼なかなか変わらないといえ、志賀原発の防災訓練もそう。問題点を何度指摘してもそのまま、というのが少なくない▼以前は、放射性物質が舞っている想定で屋外で、自衛隊の炊飯車が炊き出しをするのが恒例だった（これはさすがに、最近はなくなくなった）▼県民集会では、一月二〜三日におこなわれた訓練の監視行動の報告がされた。今回は、バスで避難するための待機場所が、屋根も何もない屋外のバス停となっていた。原発問題住民運動石川県連絡センターが指摘していたにも拘らず、そのまま実施されたらしい。テレビ会議の回線がきちんとつながらないのも、毎回のこと。他にも、枚挙に暇がない▼こんな訓練しかしておらず、本当に事故の際にどうなるのか。再稼働容認というのは、理性と想像力の欠如としか言いようがない。（山）

施している原爆のパネル展や八月六日に町内の小中学校が行っている『原爆のことを学び平和を願う集会』のこと、中学生の広島市への『修学旅行』のこと、また職員も八月六日と九日の原爆投下時刻には黙祷を捧げていることを話されました。

杉本町長も広島と長崎の原爆資料館を見学し、平和の想いは「当たり前以上」と熱く語られました。

核兵器廃絶・国民平和大行進は大歓迎

毎年の「国民平和大行進」は、職員と一緒に出席し、挨拶をしていること。これからもペットボトル募金（被爆者救援募金）など協力して下さることを約束されました。

井上代表は「国民平和大行進」の歓迎と挨拶、平和教育の実施は、私たちの運動に大きな励みになると感謝を述べました。

子どもたちは、その時には大きな気づきは無くても、後々になって学んだことの影響を知ることでしょう。能美市の一年かけて一五年戦争や原爆投下、被爆のこと、その後修学旅行で実体験するなど、しばし平和談議になり、秩父出身の井上代表は「秩父ではそんな教育は無かった。石川は凄いなあ」と感嘆。杉本町長は「私らは子どもの時から原爆や平和の話は聞いてきた」と豪快に笑って話されました。

「非核・平和宣言の町」の標柱を

原爆パネル展は庁舎ロビーで二週間開催。町広報誌で告知。観覧は多いといえないが、熱心に観ているとのこと。パネルは拝借品。自前のパネルをお勧めする。

来年は漫画『はだしのゲン』の上映会を考えているとのこと。

非核平和宣言の標柱を提案したら、即座に「おう、建てりや良い。来年建てることにしよう」と約束を頂きました。標柱の脇に記念植樹するので、そのときは参加するよう招待を受けました。

来年六月、「国民平和大行進」の歓迎集会は「非核・平和宣言の町」塔の前で行うことになるかも…。

井上代表は、来年四月、国連の核不拡散条約（NPT）再検討会議があることを話し、前回二〇一〇年も参加したが、世界の人たちは日本の運動に驚きを感じており、国際的に大きな影響を与えていること、藩基文国連事務総長も核軍縮でなく、核廃絶を明確に主張されていることを紹介。

そして子どもたちの平和教育は国際的な視野で行うことの重要性を話されました。

その後、石動山のこと、中能登町が計画している下水道の汚泥処理とバイオ発電のことなど、話は尽きることなく続き、約束の時間をオーバーして懇談を終えました。（文責 非核いしかわ編集部）

（関連情報）

中能登町がバイオ発電

二〇一七年度施設稼働目指す

下水処理汚泥や生ごみの発酵によって発生したメタンガスを燃やして、施設稼働のためのエネルギーをまかない余剰分を売電する計画。二年間の工事を経て二〇一七年度から運転開始を目指している。

生ごみは当面、小中学校の給食の残飯などの生ごみを収集、不純物を除去しメタン発酵装置に投入する。再生エネルギー事業に対する注目が高く、「先ず町民に理解していただき、ゆくゆくは分別が難しいが一般家庭の生ごみも処理可能にしたい」という。

施設の設計と環境調査に四千四〇〇万円計上（建設費は別）していますが業務委託している汚泥の間処理費用など年間二千六〇〇万円の削減が見込まれ、残物乾燥した堆肥は町民に提供を考えている。先例の珠洲市では

二〇〇七年に全国初の施設として稼働しているが、売電はしていない。施設を拡充してエネルギーを余らせることは難しいという。昨年度は汚泥と生ごみ一万二〇〇〇トン进行处理し、残物乾燥した堆肥八六トンは全て市民に配布している。（北陸中日新聞一〇月二九日号より）

井上英夫代表世話人を

**二〇一五年四月国連ニューヨーク行動に！
派遣費用募金をお願いいたします**

二〇一五年NPT再検討会議に向けて大飛躍を
〜ニューヨーク行動に向けて期待すること〜

本紙第一九四号（九月二〇日付）で井上英夫代表世話人は核廃絶、平和的生存権と積極的平和、高齢者権利条約制定と平和のことを述べ、二〇一五年NPT再検討会議へ向けて四点を呼びかけました。

① ニューヨークの平和行動、再検討会議に向けて、世論を大きく盛り上げ、核廃絶への道を確認するものにしませう。

② 安倍政権の憲法改悪、軍事国家路線を阻止し、平和主義を堅持し憲法を守り豊かに発展させませう。

③ 高齢者権利条約制定はじめ人権保障を確立し、

平和な福祉国家を築きましょう。
④ 原発に固執する安倍政権の真の狙いは核保有にあると思います。核兵器と原発を一体のものとして廃絶しましょう。

一月九日の新聞報道によると、一二月にオーストリアで開催される「第三回核兵器の人的影響に関する会議」に初めて米政府が参加すると発表しました。この会議には米英仏中口の核保有五カ国はこれまで参加していません。

米国は声明で会議の議題などを慎重に検討した結果、「建設的な取り組みができる見通しがある」としています。

世界の動きは核廃絶の方向にあり、二〇一〇年五月のニューヨーク行動に出席された藩基文国連事務総長は「NPTの目標は核削減、縮小にとどまらず核廃絶である」と明言しています。

来年四月末から五月初めに開かれる国連要請行動に井上英夫代表世話人は参加を表明しておりますが、非核石川の会の代表として送り出したいと考えています。

非核石川の会は、県内・国内での非核平和の行動と、このような国際的な運動を進めておりますが、一方で、会の活動を支える財政基盤は極めて不安定な状態でもあります。

度々のお願いで心苦しい限りですが、平和への貢献が可能となりますよう、ご支援を心からお願ひ申し上げます。

(非核の政府を求める石川の会 常任世話人会) 追伸

郵便振込用紙を同封しておりますが、ご利用いた

だけましたら幸いです。会費と全国ニュース代の遅れている方にはご明細をお入れしてあります。こちらのご協力もよろしくお願ひ申し上げます。

◇講演要旨◇

司法は生きていた！

—大飯原発福井訴訟判決の歴史的意義—

講師：弁護士副団長 島田広氏

日本被団協・東海北陸ブ

ックの相談事業講習会が、一

〇月二四日～二五日、芦原温

泉「灰屋」を会場に開催され、

被爆者ら九七名が参加した。

この講習会の記念講演が運

転差し止めの福井地裁判決を勝ち取った弁護士副

団長の島田広弁護士のお話であった。

心ある裁判官が学習会を重ねて

福井県は日本海沿いに原発一四基（海岸沿いの五

～六キロに一基）を抱えた超過密地域であり、従来

「地震の空白地帯」とも言われて大変危険に満ちた

地域である。かねてから各地で運転差し止めを求め

て住民の提訴が続いていたが、司法は原告に対して

高いハードルを設定して請求を退けてきた。しかし

福島原発事故後は、原発を追認し続けた裁判所の在

り方が国民の批判的になっていった。そこで心ある

裁判官が学習会を重ねて積極的に安全性を審査し

ようという姿勢に転じ、「万が一にも具体的危険性

があれば運転停止は当然」「原発の運転停止によつ

て多額の貿易赤字が出て、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失である」（判決文）といった画期的な判決が出されるにいたった。この判決を「司法は生きていた」と高く評価し、歴史的意義を強調したい。

控訴審に向け、裁判官の交代の動きあり

しかし、福井地裁判決後も政府の原発推進の姿勢は変わらず、関西電力も直ちに控訴して高裁での判断待ちとなっている。控訴審の争点は、具体的危険性の判断基準、行政の安全審査との関係、立証責任をどう考えるかであり、司法が国民の期待に応えるのか、原子カムラなどの圧力に屈して昔の裁判所に逆戻りするの姿勢が問われている。いやな動きとして高裁の担当裁判官が最高裁事務局長の息のかかった裁判官に交代させられた。世論の注視と勝訴判決を求める運動に協力をお願いしたい。

◇ ◇ ◇

講演を聞いた参加者は自らの体験から原爆と原発の関連性を理解しており、福島原発事故を契機に声を上げた被爆者もいる程で、関心は極めて高い。講演終了後、さっそくブックレット『動かすな！原発。大飯原発地裁判決からの出発』をまとめて買って、用意した部数が足りなくなる場面もあった。今回の講習会は、各県組織とも被爆体験と運動の継承をめざして二世の参加が目立ち、「立ち上げの準備のために来ました」と語る方もいた。

(石川県原爆被災者友の会事務局 池田治夫)

◇講演要旨◇

「チェルノブイリ事故の医療支援の経験から
福島を考える」

講師：松本市長 菅谷昭氏



一〇月二六日、金沢は朝より快晴。石川県保険医協会主催、石川県医師会後援で、原発・いのち・みらいシリーズ第九回講演会が金沢都ホテルで開かれた。午前一〇時に近づくと、会場の席が急速に埋まっていく。会場では開会前三〇分より、福島原発事故により放射線に曝された自然が映し出されていた。花、動物、昆虫、その被曝線量が痛々しい。

西田直巳保険医協会会長の開会挨拶、金沢市長山野之義氏からのメッセージ紹介、講師紹介と続き、松本市長菅谷昭氏が登場する。氏は、元は甲状腺外科専門医であり、チェルノブイリ事故とその後の甲状腺がん多発を知り、自らの天命としてベラルーシに医療支援に向かう。信州大学医学部附属病院での職を辞し、自らの退職金を使い果たすまでの五年半をベラルーシでの活動に捧げた人生の壮絶さに驚く。

菅谷氏は冒頭、今の日本社会を「難治性悪性反復性健忘症」と診断した。何か起こると、わっと騒ぎ、そしてすつと引いていく。無論、それにはマスコミの論調と国家の意思が強く反映しているだろうと推測された。

国は、低線量被曝の議論を意識的に避けようとし

ている。しかし、そんな知見などどこにもない。唯一、参考になるのは同じ原発事故で被曝を受けたベラルーシ等の子ども達の実態だ。それを生かさなければならぬ。その訴えには聴衆の多くが賛同したに違いない。ちなみに、ベラルーシでは居住禁止区域を年間5mSvに、同じく居住限界区域を一〇mSv、そして1mSv以下を低汚染地域に指定している。日本はと言えば、年間二〇mSv以下を居住可能区域と定めている。これでよいのだろうか？

菅谷氏は数年前にベラルーシを再訪し、低汚染地域に入ったが、そこにいる子ども達は多くの障害を抱えていた。彼らの多くは被曝後一〇年を経て生まれた子ども達だが、転びやすい、疲れやすい、皮膚病が治りにくいなどの症状を訴え、授業時間は正規の半分に短縮しているとのことであった。証明はできない。しかし、そこに危険が推定できる以上、まづ子ども達を安全な環境に移すことが何より先決。その言葉が聴衆を捉える。

誰もやらない。誰かがしなくては…。その思いが、「まつもと子ども留学」に松本市が係わるきっかけとなった。この留学制度は、福島に係わる医師や弁護士が中心となって立ち上げたNPO法人が母体となり、被災地の子どもたちが安心して生活し、遊び、勉強する場所づくりをめざして運営されている。松本市はそれに賛同し、住居や教育のバックアップを行っている。現在八名の子ども達が寮生活を続けている。市長自らが訪問し励ます。それに地域の善意と教育現場の協力がうまく機能していると報告された。それでも、財政問題、子どもの心のケア、そして、このプロジェクトの成否がもたらす意味な

ど、多くの難問が横たわっている。この事業は国民全体が協力して初めて成り立つものだ、そう確信した。

会場からは実に多くの質問が寄せられたが、時間の関係上、すべてを取り上げることができなかった。熱心な質疑が市民の関心の高さを物語っており、石川の活発な取り組みに菅谷氏も驚いておられた。一方で、福島のこととは恐ろしいほどマスコミの話題にならない。講演会当日は、実は福島県知事選挙の投票日だったが、国民の多くがその事実さえ知らない。なぜ、知らせないのか？日本の未来を占うとさえ言えるのに…。これこそが、今日日本が抱える病巣なのかもしれない。

(石川県保険医協会副会長 大平政樹)

講演会のご案内

戦争・「慰安婦」問題・メディア

—歴史の真実に向き合うために—

- ◇講師 池田恵理子さん
(女たちの戦争と平和資料館館長)
- ◇日時 12月8日(月) 18:30~20:30
- ◇会場 金沢市文化ホール2階大集会室
- ◇資料代 500円
- ◇主催 戦争をさせない石川の会
- ◇事務局 金沢合同法律事務所
電話 076-221-4111

非核平和の海外情勢

非核の政府を求める会第二七八回常任世話人が、一〇月二四日開催された。

藤田常任世話人から、二〇一四年一〇月二〇日に発表されたニュージージーランド(NZ)とオーストラリア(AUS)の「核兵器の人道上の影響に関する共同声明」と国連総会第一委員会での佐野利男軍縮会議日本政府代表部大使の発言などが紹介された。

今回の「核兵器の人道上の影響に関する共同声明」は四度目であるが、日本を含めて一五五カ国が署名した。一方、まったく同じ表題の「核兵器の人道上の影響に関する共同声明」が、AUSから出されて、この声明に対しては、日本を含めて二〇カ国が賛同している。この両方の決議に賛同しているのは日本のみである。

この共同声明に関して、一〇月二二日付の朝日新聞は、「AUSの声明は同時に『核兵器の廃絶は、核保有国による実質的で建設的な関与を通じてのみ達成可能』とも主張し、NZの声明に賛同した国々が、核保有国と別に動いていることにクギをさした」と、解説している。

NZの声明に賛同した国々は、非同盟諸国が中心であり、AUSに賛同した国々は、アメリカの核の傘の下にいる国々が中心である。

国連第一委員会での佐野大使の報告は、「日本は、AUSとNZの共同声明の精神を支持するものであり、我々はその双方に賛同した。我々は、また確固として日米安全保障の取り決めに維持するとともに、我々を取り巻くますます厳しくなりつつある

安全保障の文脈を背景として、適切な国家安全保障政策を運用し続ける必要性を再確認する」と述べた。

(原和人常任世話人の報告から)



非核・平和のひろば

基地のない平和な沖縄を！

沖縄県知事選、翁長さんが圧勝

五十嵐正博

翁長雄志沖縄県知事が誕生しました。一〇万票の大差をつけての圧勝です。「オール沖縄」「沖縄の誇り」が、安倍政権の暴虐にNO！を突きつけ、「基地のない島」を断固選び取った瞬間でした。

マスコミは、知事選の争点を「普天間基地の辺野古移設の賛否」と矮小化しましたが、実際は「沖縄対安倍政権」の熾烈な闘いでした。翁長さんの選挙母体は「ひやみかち うまんちゅ(いざ、皆で立ち上がるう)の会」です。

選挙では、ウチナーグチ(琉球語)が飛び交いました。沖縄の人々が、それこそ四〇〇年もの長きにわたって本土(ヤマト)から受けてきた「処分」、差別などに対する怒り、怨嗟、抗議の声であり、ウチナンチュウのアイデンティティ、あるいは「自己決定権」を求める叫びでした。その叫びは、本土の私たちに向けられたものであることを深く自覚しなければなりません。

基地のない平和な沖縄を！私たちにできる沖縄への最大の支援は、安倍政権を打倒し、平和憲法を守り、活かす新たな政権を作り上げることです。

非核石川の会 リレーエッセイ

日本のエネルギー政策の転換

藤田暁男

ドイツでは日本の福島原発事故を契機に、政府により脱原発・再生エネルギー重視政策促進の「エネルギー政策大転換(エネルギーベンデ)」が進められつつある。二〇一一年には二二年までに全原発を停止することを決定した。

これとは対照的に、日本政府は二〇一〇年の「新エネルギー計画」において原発一四基増設を盛り込む政策を重要な柱としている。しかし、これらの原発事故により、また二〇一二年の泊原発発電停止による国内全原発停止の異常事態等への対応に關しても、根底から見直しを迫られている。今こそ「日本のエネルギーベンデ(大転換)」の実現に歩み出さねばならない時である。

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、ごく最近七年ぶりに改訂された「IPCC報告書」を発表した。来年末に合意期限をむかえる新たな地球温暖化防止対策の国際枠組交渉の土台となるもので、各国に「現状の取り組みでは取り返しがつかなくなる」と警鐘を鳴らし、さらなる対策を促している。そして特に注目すべき点は、多くの国が経済成長を阻害せずに温暖化対策に取り組みうとするなかで、上記の報告書は踏み込んだ削減策には「ある程度負の効果」として経済へマイナス影響があることを認めた上で、その影響は「気候変動のリスクと同程度ではなく、近い将来プラスになる」と強調していることである。

生活保護を引き下げらるって本当？

藤牧 渡

生活保護基準は昨年八月から始まって、来年四月までの三回にわたって平均六・七%も下げられる。こんな無茶苦茶なことをやる前には、マスコミを使って巧妙にキャンペーンを張る。「家族が助けなく誰が助ける」と親族の扶養は当たり前で、そうできないうちはどうしてかと問い詰める。その上「競馬やパチンコしている」「酒ばかり飲んでる」と、生活保護受給者全員がそうだといわんばかりに攻撃する。



生活保護基準引き下げは憲法違反と金沢地に提訴する原告団・弁護士

私はこの五年間ほど、生活困難に陥った人たちと一緒に、「生きがい・やりがいを見つけよう」と集まる「生きがいセンター・まつもとてい」をつくり、生活再建に取り組んできた。

全国では幾つかの県で、「生活保護の老齢加算を

削ったのは、大臣の権限を逸脱し憲法違反だ」と生存権裁判が起こされた。石川県では、昨年八月に保護基準が引き下げられたのは納得できないと、不服審査請求が行われ、とうとうこの一〇月には四人の原告によって、裁判が起こされた。これに先立ち、「人権を主張するいしかわの会」が結成されたので、私も結成総会に参加し会員となった。裁判は、既にたたかわれている生存権裁判の例でも、一〇年は覚悟しなければならぬほど長期戦だ。私たちは、国を相手取ってたたかう以上、覚悟を決めないといけないと、「まつもとてい」に來ている人たちを中心に「金沢生活と健康を守る会」を再結成した。

毎月継続的に学習し、権利意識を高めながら、「主張すべきことはきちんと主張していこう」と考えている。最初は黙って下を向いていた人も、今では他人の前で、自分のことを語れるようになった。「弱いもの」「経済的に困難なもの」同士を敵対させ、真実に目が向かないようにするのが、権力を握るものの常套手段だ。

だから私たちは今、いろんな運動に顔を出し、一緒に考え、行動しようと考えている。

「手と足をもいだ丸太にしてかへし」
東京公演を鑑賞してきました

岩原茂明

志賀原発をはじめ、各地の原発で住民の一部も加わった避難訓練が行われ、またいっぽうでは秘密保護法の施行がいよいよまぢかになってきました。

こうしたときに、十一月九日(日)東京新宿下落

合の俳優生協の劇場で「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の公演があり、私も妻ともども観にいきました。この句は石川県の戦前の川柳作家である鶴彬の絶筆のひとつで、昭和十二年十一月十五日の「川柳人二十一号」に掲載されたものだそうです。

その少し前、九月十五日の川柳人に載った連句に「しやもの国奇譚」(注)があります。

ちようどの頃、「木材通信社」に勤めようとしていた頃でしょう。またときあたかも数日前には国民精神総動員要綱発令が發布されています(和川柳社鶴彬句集より)

「しやもの国奇譚」はたとえであって、弾圧の眼を逃れるためだけではなく、日々の生計さえ押しつぶられそうな重苦しい社会を反映したタブーの世界を赤裸々に描いたものでした。

注 「興奮剤を射された羽叩きでしやもは決闘におくられる」から「骨壺と売れない貞操を抱へ淫売どりの狂ううた」までの十一句連作

詩人会議かなざわ「独標」より

二〇一四年七月一日

石川 あい

食事のあとの床に雑巾をかける

まずは亭主のいすの下

焼き魚を

口に運んでいたのに

あちこちこぼれ落ち

床を汚している

ゴキブリの餌とならないよう
床を拭く

つけっ放しのテレビから

再び戦争する国になることは断じてあり
得ない

声高に話す人がいる

確かあの人は

美しい日本

緑豊かな日本を叫んで首相になった

より一層力を込めて雑巾を次のカーブへ

私の定置だ

別腹の駄菓子の子の切れっ端

何だこんなもの

まだまだ落ちてるぞ

こぼれぬように気をつけているはずなのに

なんてことだ

テレビは大写しにあの人の顔

平和国家の歩みは変わらない

突然の危機が迫ってくるかも

命と暮らしを守るための法整備だ

表情も変えずに話してる

編されないぞ

あの人の言葉には魂がない

嘘八百並べて

誰が信じるものか

全身の力を込めて

雑巾をかける

調理台の前

ここは醤油や調味液が一番こぼれるところ

冷蔵庫の横

ここはゴキブリが出番を待っているところ

これでもか

これでもか

膝を曲げ

腰に力を入れ

両手で雑巾をかける

(注)七月一日安倍内閣は世論の反対を押しつけ集
团的自衛権の閣議決定をした。

予感

予感

山口修治

ヒロシマ ナガサキ ビキニ

そして フクシマ

披爆して六九年 被曝して三年

スリーマイルやチェルノブイリも見て

福島第一原発の収束の見通しもたたないのに

大間原発の建設を認め

川内原発の再稼働を認め

あげくのはて原発利益共同体で輸出に走る

なんとということか

来年度の核不拡散条約再検討会議に向け

今年の四月から毎日一筆の署名を集める知人

小中学校への『はだしのゲン』の寄贈

その取り組みの先頭に立つ同郷・福井の先輩

僕は金沢駅前の金曜日原発ゼロ行動に参加

八月九日は等願寺で平和の鐘もついた

大飯原発再稼働差し止めの画期的な勝利判決

そして

原水爆禁止二〇一四年世界大会・広島成功

『木の葉のように焼かれて』四八冊目の発刊

きつと みんなの英知と行動が実る

《編集室より》

◎十一月一六日の夜、沖縄県知事選の結果が翁長氏
当選と出た。ひとまずガッツだ。では次は、あの人が
仕掛けた解散、総選挙をどう見てどう戦うか。追
い込まれた政権が今のうちに「消費増税先送りの是非
を問う」という欺瞞で世論をかわし、多数を掠め
取るうという戦術だろう。じゃあ全ての候補者と政
党に問うて、その姿を浮き彫りにしよう。最大の争
点は「集団的自衛権行使」の是非だ。(I)

◎再生可能エネルギーで発電した電力の買取拒否
を容認し、あれこれ策を講じて川内原発を再稼働さ
せた揚句、原発輸出を画策とは、とても正気の沙汰
でない。「再生可能エネルギー拒否の理由は再稼働
と既得権益を守るため」の本音がはいよいよ見え見え
となり、国民との矛盾は広がるばかり。環境と暮らし
を守るより、儲け優先の連中に未来を任せてはな
らない。(ま)

「被爆者が描いた体験画展」シリーズ②

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

爆心地近く
広島市十日町附近



(1977年7月7日撮影 中田喜重)

近郊の農村から馬車を引いて入市してきた農夫らしき男の人が、馬とともに倒れていた。馬は亡き主人に付き添うように傍らに倒れていたが、火に焼かれたためか腹部が非常に膨張して、普通の二倍以上にも見えた。そのそばを、怪我や火傷をした被爆者が、力なく身体を引きずりながら逃げのびていった。



金沢医療生協絵手紙班 広瀬勝子

絵手紙コーナー



兵舎がつぶれ、木の下敷きになった同僚を助けようと、そばに駆け付けたが、火が物凄い勢いで足元まできている。どうすることもできず、見殺しにしまったと、涙ながらに話してくれた友人がいた。

《非核平和・行事予定》					
月	日	曜	時	行 事	場 所
11	27	木	18:30	日米防衛協力のための指針・学習会 (講師：柴原和美氏)	近江町交流プラザ
12	2	火		衆議院議員選挙公示 12月14日投票日	
	6	土	9:30	平和サークルむぎわらぼうし+紅茶の時間・講演会 (講師：小森陽一氏)	近江町交流プラザ
	6	土	14:00	石川憲法学校金沢教室	労済会館
	6	土	17:00	核廃絶署名6・9行動	金沢駅鼓門
	8	月	10:00	金沢市革新懇・金沢北部革新懇「不戦のつどい」	金沢駅東口・地下広場
	8	月	18:30	戦争をさせない石川の会講演会 (講師：池田恵理子氏)	金沢市文化ホール
	9	火	12:00	核廃絶署名6・9行動	Mza前
	10	水		人権デー・特定秘密保護法施行	

*毎週金曜日 18:30 どいね原発・アピール行動 金沢駅東口